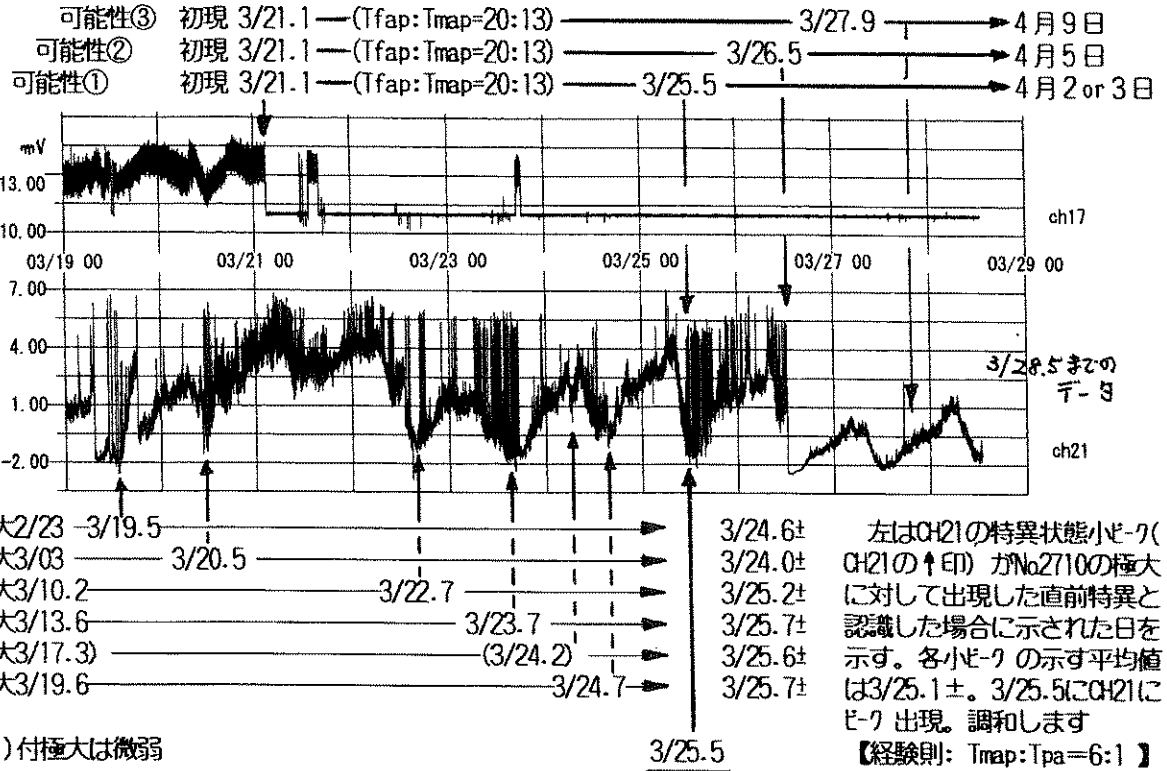


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 推定通り 3月25日ピーク観測

前情報ではNo1778第14行-とNo2710が示す時期3月25日は対応地震発生日ではなく、この時期にピークが出現する可能性があること。このピークに対しての初現は、3月21日のCH17の24時間継続糸状特異出現開始の可能性を報告。
右の波形は、上がCH17、下がCH21です。CH21の基線電圧値が下がった部分が小ピークと認識。各小ピークをそれ以前に出現したNo2710の極大に対する直前特異と認識しますと右記の通り3月25日±を示す。



CH21が3/29に静穏傾向化した場合は3/27極大 - 3/30以降継続した場合は、3/25(又は3/26) 極大の可能性

上の様に認識しますと、CH21の3月25日に出現したピークは、No1778第14ステージとNo2710が示したピークであると認識できます。3月21日から出現したCH17の糸状特異24時間継続を初現と認識した場合、この3月25日をピークと認識して良いのか、CH21に完全糸状態が出現している3月26日をピークと考えた方が良いのか、または明日以降にCH21の顕著特異が静穏化傾向となり、顕著特異の中心(3月28日以降)がピークとなるのかと云う3種の可能性が考えられます。この3種の可能性については上波形の上部に可能性①~③として記してあります。3月26日夜よりCH20に弱い特異が継続出現してい

ます。このことから、現在のCH21の顕著な特異は、極大が出現した後に出現した前兆変動の可能性が考えやすく、可能性①又は②が考えやすいと思われます。これを検証するには終息を観測することが必要です。ちなみに3/21初現の前兆はNo1778とNo2710両方から共通で出現しています。

現状可能性①が考えやすいが、前兆終息を観測し計算予定

現状考えやすいのは、可能性①ですが、明日CH21特異が静穏傾向化した場合は4月9日の可能性も有。実際の終息を観測して決定したいと考えます。4月3日時点で前兆が継続した場合は、4月4日以前の対応地震発生の可能性は否定できます。

前兆終息が出現した場合、終息時期と推定発生日の関係は下記のとおりです。

初現	終息	推定発生日
3/21.1	- 3/31.4±	→ 4/2±
3/21.1	- 4/01.2±	→ 4/3±
3/21.1	- 4/02.0±	→ 4/4±
3/21.1	- 4/02.8±	→ 4/5±
3/21.1	- 4/06.2±	→ 4/9±

実際の終息又は変化、修正検討結果が出た場合は続報で報告させていただきます。但し、4/2~3発生の場合は3/31夜か 4/1夜の続報となる可能性があります。



◆推定領域: 左図 大線内領域=大枠推定
斜線領域=可能性考え易い領域
ダブル斜線領域=参考推定領域

◆推定規模: M7.8 ± 0.5

◆推定時期: 前兆変化及び終息を観測後計算予定
可能性①3/31±前兆終息出現の場合=4月2~3日
可能性②4/2±前兆終息出現の場合=4月5日±1
可能性③3/29にCH21特異静穏化場合=4月9日±等
(4月3日以降に前兆終息の場合は別途計算予定)

◇推定発時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3)

◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震